

浅原清隆氏の絵画3点が 播磨町郷土資料館に寄贈される

9月12日(金)、郷土資料館において大川出身で、日本近代美術の歴史のページに足跡を残された、浅原清隆氏の絵画3点の展示初め式が行われました。

この絵画3点の展示は、東京都在住の渡辺美枝子氏から寄贈していただき実現しました。
浅原清隆氏は1915年(大正4年)、当時の阿閉村(現在の播磨町南大川)に生まれ、帝国美術大学(現在の武蔵野美術大学)に入学。シュールレアリスムの影響を受け、積極的に芸術運動を展開されていきました。1945年(昭和20年)、第二次世界大戦のビルマ戦線で行方不明となりました。



▲郷土出身の画家の作品を見てください

式典には浅原清隆氏の弟である浅原清治郎氏も出席され、「当時は、長男が家を継ぐのが当たり前という家族制度のなか、兄は『絵を描きたい』という強い思いを持って、苦勞をして東京の学校へ行ったようです。残念ながら、戦争ですべて遺作ということになってしまいました。先日、東京の国立近代美術館で『地平線の夢』というテーマで作品展示されるなど、にわかに脚光を浴びています。郷土出身の画家の作品を皆さんにもぜひ見ていただきたいです」と話されていました。

シュールレアリスムは現実にはない人間の心に映る光景を描き、人の潜在意識を表現する。超現実主義ともいわれる。



▲作品「淡路島」



▲作品「女子アパート」

敬老会で楽しいひととき



▲いつまでもお元気で!

長寿を祝う「敬老会」が9月26日(金)、加古川市民会館で開かれ、約700人が参加しました。
敬老会の対象者は数え年70歳以上で、今年は、前年に比べて149人増の3723人(男性1598人、女性2125人)。
会場では最初に式典が行われ、長寿(90歳以上)の203人と米寿(88歳)の54人、夫婦で150、151歳の96組のそれぞれの代表の方に、お祝い状と記念品が贈られました。
後半には、大衆演劇や漫才、ものまねショーがあり、参加者たちは楽しいひとときを過ごしました。

父親セミナー開催



▲おもちゃをつくる父親らと完成したおもちゃ(左上)

10月5日(日)、中央公民館で、県生涯学習講師である栗木 剛氏を招いた「父親セミナー」～お父さんパワーを子どもと一緒に～を開催され、4歳までの子どもがいる父親ら約30人が参加しました。
この日は話を聞くという形式的なものではなく、身近にあるものを使って、子どもと一緒におもちゃを作り、遊ぶという具体的な内容で、割りばしと洗濯バサミを利用し、ティッシュを飛ばすおもちゃを作りました。
栗木先生は熱心におもちゃを作る父親らに、「単純な遊びほど子どもは夢中になります。みなさんのように親のほうで夢中になって作ってしまいがちなのですが、子どもたちはそういう一生懸命な親を見て大きくなっていくのでしようね」と親しみのある独特の口調で、参加者の心をつかんでいました。

ゴーヤのカーテン

レポーター 米谷 美代子さん



▲窓の外に出来上がった見事なゴーヤのカーテン

最近、沖縄の代表的な食べ物として注目されるゴーヤが、今では全国で年間を通じて流通するほど人気があります。これは、ゴーヤが血圧を安定させ、血糖値やコレステロール値を下げ、その上ビタミンCが豊富で糖尿病にも有効など、生活習慣病予防に多大な効果があると注目されているからです。各家庭でも手軽にゴーヤが栽培されるようになりました。

二子の西森さん宅では、窓の外側にゴーヤのつるを伸ばし、見事なゴーヤのカーテンができあがりしました。この夏、日よけになり、風通しも良く、虫もあまり来ないということまで重宝したそうです。今年6月に初めて苗を植え、どんどん伸びて生育し、8月にはゴーヤを100本以上も収穫したそうです。奥様によると、毎日ゴーヤを食べたお陰でコレステロール値が下がったそうです。
帰り際、熟れたというオレンジ色のゴーヤを初めて見せていただきました。種が真っ赤で驚きました。

「愛犬のしつけは? にこにこ教室開催」

レポーター 門倉 敏子さん



▲しつけのコツ 学びませんか?

播磨町では「ワンツーボックス」を段階的に廃止することに伴い、マナーの向上を訴える啓発活動を行っています。9月21日(日)、南小学校で大人向けに「にこにこ教室」が開催され、今回15人が参加されました。
指導の先生からは、犬の運動時間や健康管理、散歩のさせ方などの細かい説明があり、ただ可愛がるだけではなく時には厳しい愛情も大切だと話されました。飼い犬の事故(ほえられたために転んでけが、かむなど)についての賠償責任など、飼い主が負う責任があることも説明を受けました。
飼い犬が一斉に並んで「スワレ」、「マテ」、「コイ」など約50分指導を受けました。
今回募集に苦労したと聞きましたが、しつけのコツを学ぶには絶好の機会だと思えます。
今後定期的に開催を予定しています。飼い主の皆さんも愛犬と一緒に参加してみませんか?

始められたきっかけは?

男子のバレーボールクラブが無く、男子もバレーボールが楽しめたらと思いい、始めました。

グループの特徴は?

播磨町では唯一の男子バレーボールチーム。6年生はいませんが、皆仲良く楽しんでいます。

活動の内容は?

土曜日の午後と日曜日の午前中に、播磨北小学校の体育館で、女



▲メンバー募集中です!

最初はメンバーが少なく、試合にも出れない状態でしたが、今ではメンバーも8人になり、14年4月に初登録しました。15年6月の大会では上位(東播磨男子6チーム中2位)の成績を収め、あこがれの県大会出場を得ました。播磨地区の男子でしたら誰でも入部できますので、ぜひ一度、体験しに来てください。



男子バレーボール ファイヤーボーイズ

代表者 森本 和恵さん
0794(35)6208



このコーナーに登場して下さる「人、仲間たち」をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。企画調整課

企画調整課 広報係 0794(35)0356

今日は、うれしい日やなあー。

蓮池保育園



▲おじいちゃん、おばあちゃんとの楽しいひととき

今日は、心ゆったり、気持ちほっこり。うれしいひとときを過ごすことができました。

「そつやー！ 今日はおじいちゃんの日や」あつ、前、来てくれたおばあちゃんや「と嬉しいそつやー」
今日は、月一回の地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちとの交流の日です。初めは、声をかけられても恥ずかしくてモジモジしていた子どもたちも、回を重ねるうちにすっかり顔なじみに。今では子どもたちの方から声をかけるようになってきました。
0歳児から5歳児クラスまで、どの部屋からも楽しいふれあいの声が聞こえてきます。お手玉遊びやわらわら唄遊びなどの昔の伝承遊びを教えていただいたり、一緒にゲームや好きな遊びを楽しんだり、また、そつとひざの上に座って抱っこで絵本を読んでもらったり

お兄ちゃん、お姉ちゃん、優しさいっぱいありがとう!!

蓮池幼稚園



▲声援を受け、カゴに向かって「エイヤッ!!」

蓮池小学校の運動会がもうすぐという日、小学5年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちと楽しい出合いがありました。
運動会には一緒に玉入れをしようね」と書いた名刺をもらってニコニコ笑顔です。自分の名前もしっかり覚えて呼んでもらい、大好きなサッカーと一緒にボールを蹴ったり、おんぶしてもらったり、別れる時にはもうすっかり仲良し!!
運動会当日には、「おーい、○○ちゃんこつちやで!!」と優しく手をつないでもらって入場。「上の方に投げらんやで」の声援を聞きながらはりきって力をねらいました。「またな」と頭をなでてもらってさよならした後も、道で会うと「○○ちゃん!!」と声をかけてもらって大喜びです。きつと来年、あのお兄ちゃん、お姉ちゃんがいる小学校へ行くのが楽しみになったことだよ。

朝は 元気なあいさつから

播磨北小学校



▲地域の方とあいさつでコミュニケーション

「おはようございますー!」
今朝は、校門でのあいさつの声が多く、登校してきた子どもたちは少し驚いた様子です。というのも、「地域ふれあいの会」の方々と計画委員会のメンバーが、「おはようございます」のあいさつの声で出迎えたからです。
大きな声であいさつを返す子、少し恥ずかしそうにあいさつを返す子などいろいろいます。どの子にも、地域の方は優しいニコニコとした顔を向けてくださいます。
計画委員の子どもたちはこの活動を見て、「あいさつ運動をして、ちゃんとあいさつをすると、とても気持ちのいいことがわかりました。高学年から大きな声で「おはようございます」と言える学校にしたいです」と、高学年の自分たちが頑張らなければと思ったよかったです。
明るく元気なあいさつの輪を広げていきたいものです。

体育大会を終えて

播磨南中学校



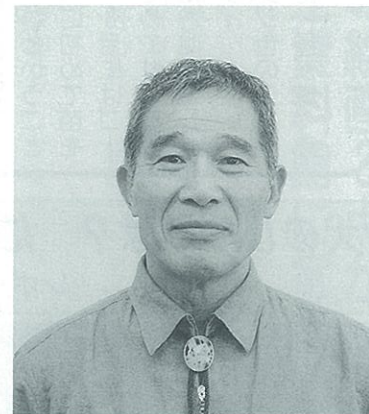
◀力のこもった演技の数々▶

「燃えよ南中、戦いの火花を散らせ」のテーマのもと、第25回体育大会が9月20日(土)に行われました。
この日は朝からあいにくの雨模様で、最後まで行えるかどうか心配されましたが、生徒たちは生き生きと競技や演技をこなしていきました。各学年男女別の学級対抗リレー、学年演技のムカデ競争、男子全員による騎馬戦や組体操、女子全員による棒引きやダンスなど観客を沸かせていました。
中でも、ひとときみんなの目を引いたのは、各団対抗の応援合戦でした。緑・紫・黄・赤の4団が、体育大会当日まで団長や団員を中心に、毎日力のこもった練習を続け、その成果を発表し合いました。どの団もとてもみごとな応援でした。力の限りをつくした体育大会。生徒一人ひとりの心によき思い出として残ったことになりました。

あなたに はつたつち

リレーエッセー⑥

自分の健康は自分で守る



田中 譲治さん (野添)

自己PRなど
スポーツ大好き。スポーツクラブ21はりまを宜しくお願いします。

「この考えが私の中に芽生えたのは、私の父親の糖尿病がきっかけでした。父は「二〇〇mg/dlを越す高血圧症と左足の切断」で苦しみました。その時、私は遺伝的には自分にも発病する可能性があると感じ、自分の健康を守らなければ、と強く感じました。そして、自分なりの健康維持に努めてきました。」

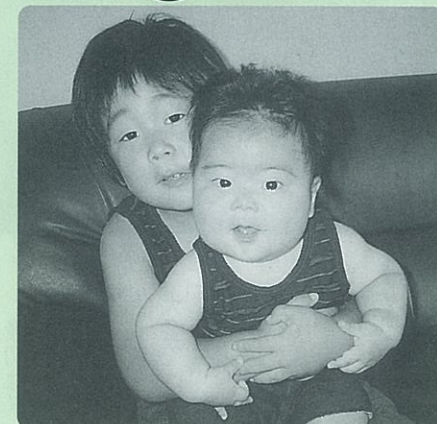
「その甲斐あって、私の兄弟は糖尿病一人、がん二人、脳卒中一人、心臓ペースメーカー一人と、そのほとんどが生活習慣病を持って懸命に生活しています。が、今のところ私は健康に過してまいります。」

「ここで、私が健康について考えていることを少し述べさせてください。」

「H O T ホット育児をめざして
子どもにうまく寄り添うために
子育て学習センター」

「自分の健康は自分で守る」
これは私の人生の最終目標である「ピンピン生きてコロリと死ぬ」につながると思います。日々努力しています。皆さん、人生に、健康に感謝し、ますます健康を培っていきましょう。
私は自分の特技を生かしてボランティア活動に参加しています。他人を思いやる心で楽しく接するよう心掛けています。人間は一人では生きられません。人と人とのつながりによって生かされていると常々感じております。健康に対する考え方は人それぞれだと思いますが、他人の健康法の良いところを取り入れ、自分に合った健康法を見つけ出してみたいですね。
「自分の健康は自分で守る」
これは私の人生の最終目標である「ピンピン生きてコロリと死ぬ」につながると思います。日々努力しています。皆さん、人生に、健康に感謝し、ますます健康を培っていきましょう。

わんぱくはりまっ子



ほんだ かいと 本田 海斗くん (5さい) あくあ 亜妃亜くん (10カ月) 宮北

きょうだい なかよく。(パパ・ママより)



このコーナーに出たい「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(3歳~5歳対象) 広報担当まで電話を。またスナップ写真を送ってもらってもけっこうです。